

神殿再建②

シリーズ～築く～

2010/7/11

神殿再建とその後の停滞

- ◆ 538 第1回帰還(キュロスによる解放)
- ◆ 537 祭壇を築く(エズラ3:1-2)
- ◆ 536 神殿工事着工(エズラ3:8)
　　<妨害に遭い、工事ができず>
- ◆ 520 神殿工事再開(エズラ4:24)
- ◆ 515 神殿完成(エズラ6:15)
　　<約70年間の停滞期>
- ◆ 458 エズラの帰還(エズラ7:1,8-9)

エズラ

- ◆ バビロンで生まれ育った「第2世代」捕囚民
- ◆ 祭司長の家系で、律法に精通し、「書記官」として王に仕えていた
- ◆ ペルシアの王アルタクセルクセスはエズラを重んじ、彼の神と律法を尊重していた。
 - 「エズラよ、ゆだねられた神の知恵によってあなたは治める者と裁く者を任命して、ユーフラテス西方のすべての民、あなたの神の律法を知るすべての者を治めさせ、律法を知らない者にはあなたたちは教えを授けよ。」〈7:25〉

エズラの使命

- ◆ 神殿完成後、停滞していた祖国を再生する
- ◆ そのために、主の律法を教え、実行する
 - 「エズラは主の律法を研究して実行し、イスラエルに掟と法を教えることに専念した。」<7:10>
- ◆ 主が彼と共におられた
 - 「神なる主の御手の加護を受けて、求めるものをすべて王から与えられていた。」<7:6>
 - 「神の慈しみ深い御手の加護を受けて到着した」<9>
 - 「わたしは、わが神なる主の御手の加護によって勇気を得、イスラエルの中でわたしと共に上って行こうとする頭たちを集めた。」<28>

覚悟の帰還

◆ 断食祈祷の呼びかけ

–「わたしはアハワ川のほとりで断食を呼びかけ、神の前に身をかがめ、わたしたちのため、幼い子らのため、また持ち物のために旅の無事を祈ることにした。」<8:21>

◆ 護衛なしの帰還

–「わたしは旅の間敵から守ってもらうために、歩兵や騎兵を王に求めることを恥とした。」<22>

腐敗がもたらした沈滞

◆ 帰還民の異民族との結婚

- 「彼らは、自分のためにも息子たちのためにもこの地の住民の娘を嫁にし、聖なる種族はこの地の住民と混じり合うようになりました。」〈9:1-2〉

◆ 嘆き悲しむエズラ

- 「わたしはこのことを聞いて、衣とマントを裂き、髪の毛とひげをむしり、ぼう然として座り込んだ。」

◆ エズラの祈り

- 「またしても御命令を破り、その忌まわしい民と縁組みをすることができましようか。お怒りになって、わたしたちを一人残らず滅ぼし尽くされても当然です。」

民の悔い改め

◆ 帰還民の決意

- 「今、わたしの主の勧めと、神の御命令を畏れ敬う方々の勧めに従ってわたしたちは神と契約を結び、その嫁と嫁の産んだ子をすべて離縁いたします。律法に従って行われますように。」 <10:3>

◆ 悔い改めの集い

- 「民は皆、神殿の広場に座り、そのことのため、また雨が降っていたために震えていた。」
- 離縁者のリスト：祭司17名，レビ人6名，歌うたい1名，門衛3名，他に84名，合計111名

何かを築くためには

- ◆ 主の律法(聖書)を学び、忠実に行う
 - 周囲の人々が敬意を払うほどに
 - 主の御手の加護を受ける
- ◆ 信仰によって決断する
- ◆ 祈り、祈られる
- ◆ 聖書に従い、神の前に正しく生活する
 - 弱さは罪を生み、罪は神の作業を妨げる
 - 神は悔い改めを受け入れ、再びチャンスを下さる